

【平成25年度 北海道旭川東高等学校 第2回学校評議員会の報告】

期 日：平成25年12月3日（火） 17：40～19：00

会 場：北海道旭川東高等学校 校長室及び定時給食室

出席者：学校評議員2名、校長、全・定教頭、事務長 6名

今年度も、定時制給食室にて、生徒が毎日食べている「夜食給食」の試食会を実施しました。



定時制では、健康管理の面から、原則として生徒全員が「夜食給食」を摂るようにしています。

この日のメニューは「カレイのムニエル、こんにゃくとふきの炒め物、納豆、豚汁、牛乳」でした。

栄養のバランスもとれ、大変美味しくいただきました。



特にカレイのムニエルにはタルタルソースが添えられるなど、若者の嗜好にも合うよう工夫がなされていました。

思いやりが一杯詰まった給食が、定時制の生徒たちにとって学校生活の楽しみの一つになっていることをあらためて実感しました。

試食会に引き続き、校長室にて意見交換を行いました。

〈学校経営及び運営に係る説明事項〉

校長から、

- 1 今年度もおおよそ3分の2の日程を終えたが、大きな事故等もなく、生徒も日々有意義な学校生活を送っているとの概況報告がなされた。
- 2 周年事業が同窓会の皆様をはじめ、関係各位の多大なるご支援とご協力を得て、当初の予定どおり全ての事業を滞りなく終えることが出来たこと、
またその事業は、生徒はもちろん、同窓生の方々にとっても大変意義あるものになったことを説明の上、改めて感謝の意が述べられた。
- 3 昨年度から2年がかりで施行している校舎改造工事がいよいよ終盤を迎えたこと、
またこの間、様々な教育活動で生徒から多大な協力を得たことや保護者の方々に深いご理解をいただいたことに対して説明がなされた。
- 4 学校課題については、様々な分野において校内外から貴重な意見をいただき、学校もその一つ一つの解決に向け鋭意努力をしていることについて説明した上で、学校評議員の皆様から忌憚のない意見を伺いたいと挨拶。

〈新たな取り組みや改善内容〉

■ 全日制

- ・健康管理体制の強化
- ・国際交流の促進
- ・各種指定事業の推進
- ・Pと連携した通学見守り運動の実施
- ・ネットパトロールの定期的実施
- ・保護者向け各種たより等の情報発信
- ・進路シラバス等の内容の充実 など

- ・校内研修の充実
- ・防災訓練の充実



■ 定時制

- ・部活動加入率と定通体連での上位入賞
- ・デートDVなど、校内集会の実施
- ・進路希望実現に向けた個別指導体制の充実
- ・生活体験発表大会の成果 などについて、全定教頭が説明を行った。

〈学校の教育活動全般に関する意見交換〉

Q：現在の進路状況はどのようになっているか。

A：全盛期に比しやや低下しているように思われがちだが、当時と比べ間口や生徒数が減少していることも影響していると考えます。医進類型については生徒の関心も高く、毎年大きな成果を挙げている。課題については、今後も、生徒一人一人の進路目標実現を軸に、職員が一丸となって同じベクトルのもと組織的に改善を図っていく。

Q：国際交流はどの程度行われているのか。

A：韓国の高校生との交流に加え、今年はラトビアの高校生とも交流を行った。市や近隣の国際交流課と連携し実施している。交流はほとんど英語で行っている。

O：欧州では3カ国語（自国語、近隣国の言語、英語）を学ぶ国も多い。大学生が学生時代に海外でインターンシップを行い、帰国後、日本で就職するといったこともよく耳にする。大手企業の中には、日本にありながら社用語は英語という所もあると聞いている。やはり語学力については今後ますます磨いていく必要性を感じる。



Q：学校は防災時の避難所になっていると思うが、水や毛布などの備蓄は行っているか。

A：市の避難所の一つに指定されているが、水等の備蓄は現在行っていない。旭川市の避難指定を受けた施設は備蓄品を揃えられるところが少なく、今後の課題となっている。

○：高校ではネットパトロールを行っているとの話しだが、中学校ではスマートフォンが主流となり、LINEなどを使った人間関係のトラブルをよく耳にする。遅かれ早かれ、その流れは高校にも迫ってくると思うので注意していただきたい。

○：PTAと生徒会との交流は今後も是非継続してもらいたい。自分のことだけでなく、他者のことも考えられるような心の成長に、PTAが関与していくことは大変重要であるとする。

Q：ボランティアではどのような活動をしているのか。

A：児童への読み聞かせ、町内清掃、市のイベント等の手伝い、異種校との交流など様々である。ボランティア活動の内容と趣旨を鑑み、高校生に適切と思われる活動について生徒に案内し募集をかけている。決まったメンバーではなく、その日、その活動を行える生徒が集まって活動している。担当者は、その状況や成果について広報を通じて他の生徒や保護者に伝えている。

Q：高大連携はどのような範囲で行っているか。

A：市内にある大学とは様々な機会を通じて連携し、良い刺激を沢山いただいている。また、卒業生による講話や道内外の大学からの出前授業なども有効に活用させていただいている。

Q：定時制生徒の概況はどうか。

A：高校進学前にちょっとした躓きなどがあり、悩みや不安を抱えている生徒もいるが、学習面でも生活面でも主体的に活動している。今後も、一人一人の生徒と向き合い、進路実現に向けた取組を一層充実させていきたい。

学校評議員の皆様には、今後に向けた新たな課題を提示していただくとともに、現在の取組をさらに充実させていくためのヒントや方策等についてお話しいただきました。

早速、年度末に向け、出来ることから学校運営に反映させていきたいと思っております。貴重なご意見に厚く感謝申し上げます。